

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2672400062		
法人名	社会福祉法人 太陽福祉会		
事業所名	グループホーム いきがい		
所在地	京都府京丹後市久美浜町湊宮467-60		
自己評価作成日	平成27年11月13日	評価結果市町村受理日	平成28年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&JigyosyoCd=2672400062-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着事業課の一員として、他事業所と協力し関わりを持ち、ご利用者の方々が行事に参加することで、地域の方々とのふれあいの場を持っていたくようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は住宅街から離れた場所に位置し地域住民との交流の機会が困難な中、併設施設で行われる地域の方との交流行事や認知症カフェ等に利用者を出かけたり、長年にわたり子ども会と一緒にクリスマス会やバーベキュー等の季節の行事を楽しむ等、工夫しながら交流の機会を作っています。職員は利用者本位に思いや希望を検討して把握することに努め、利用者がかつて得意だった編み物などに再び取り組めるよう力を引き出せるように関わりながら日々の支援を行っています。毎日の食事は利用者の希望や好みを聞きながら季節に合わせた食材や郷土料理を取り入れ、利用者は材料を切ったり盛り付け等に携わり、職員も共に食卓に着き同じ食事を摂り談笑しながら、家庭的な雰囲気の中で利用者が安心して穏やかに暮らせるよう支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	実践を心掛けている	人権の尊重や相互扶助、地域貢献等を謳った法人の理念を事業所の理念としています。職員心得の中にも理念に繋がる内容があり、管理者はグループホームの意義を職員に伝えたり、信頼関係の構築や利用者本位の支援に努めながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の子供会とバーベキューやクリスマス会などで交流したり、他事業所と共同で地域との交流活動を行っている	事業所のクリスマス会は毎年地域の子供達を招き一緒に飾り付けをしたり、ケーキを食べて過ごしています。地域からは畑の世話や笛や大正琴の演奏のボランティアの訪問があり、一緒に歌う等の交流をしています。民生委員から地域の行事等の情報をもらっており、参加に向けて検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症安心サポート相談窓口実施事業所として、玄関には看板を掲げいつでも相談して頂けるような体制である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度運営推進会議を開催し、地域住民からの意見や取り組みなどの情報を得て活かしている	会議は2か月に1回家族や地域住民、民生委員、市職員等の参加の下開催し活動や行事の報告を行い意見交換をしています。行事と同日に会議を開催することもあり多くの参加者が得られるように工夫しています。地域の情報をもらったり、参加者の意見を基に業務の見直しを行う等、サービスの改善に繋げ運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の地域密着事業所の意見交換会に出席し情報交換や意見交換を行っている	運営推進会議に市の職員の参加があり、町のサービス担当者会議や地域密着型事業所会議に参加し市の職員や地域の他の施設の職員等と情報交換しています。市の担当と話す機会も多く協力関係を築いています。また市から研修の案内が届いた際は可能な物には参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が身体拘束をしないケアの実践に努めている。夜間以外の施錠は行っていない	法人で毎月行われるサービス向上研修会の中で必ず年1回以上身体拘束をテーマに学び、2か月に1回身体拘束委員会の会議には代表者が参加し事業所で伝達研修をしています。玄関は夜間以外は施錠せず連携して見守り、外出希望の利用者には付き添って対応し閉塞感のないように支援しています。不適切な声かけがあれば管理者は職員同士でも注意し合うように伝えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	講習会などに参加し意識向上を図り防止に努めている		

グループホームいきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる入居者がなく勉強会はできていないが、管理者は町主催の勉強会に出席した		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に説明など行い、納得して頂けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会、面会時などを利用し意見を聞き反映させている	家族の意見は来訪時や介護計画の見直し時、運営推進会議時や年1、2回開く家族会等で聞き遠方の家族へは電話等で意見を聞いています。家族の面会毎に利用者から自宅に帰りたいとの要望が出され、職員間で利用者に安心して暮らしていただく居心地のよい場所となれるような関わりや対応方法について検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場だけでなく、日常的に聞く機会を設けている	月1回の会議は全職員が出来るだけ参加しやすい時間帯に実施し、出席出来ない職員には事前に意見を聞いています。法人の身体拘束やリスクマネジメント等の委員会に職員が参加して意見を出したり、職員はレクリエーションや環境等の担当業務があり主体的に考え意見を出しています。管理者は職員の様子をみて話を聞いたり、個人面談の機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力して頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所に研修に出向いたり、事業所内での勉強会に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の地域密着事業所の意見交換会に出席し情報交換や意見交換を行っている。又職員の意見交換会にも出席しサービス向上に取り組んでいる		

グループホームいきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から伺える場合はしっかり確認を行っている。又利用されてからも随時意見など伺い、信頼関係を築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からも状態把握をしながら意見など伺い、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の能力を最大限に活用し、一緒に作業や休養、娯楽を共に支えあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と協力しながら努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内での面会は随時対応している	友人や知人、親戚等の来訪があり、お茶を出したり、時にはお菓子を一緒に食べながら居室やリビングでゆっくり過ごせるように配慮をしています。利用者の実家近くをドライブしたり、家族の協力を得て自宅に帰ったり、法事や食事等へ外出する時は体調管理や服装等の事前の準備を支援したり、排泄や食事のアドバイスもしています。年賀状の作成や投函等も支援し、馴染みの関係が継続できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ったりして努めている		

グループホームいきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入所された)方には時々面会に行き声をかけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知があるとなかなか本人様の意向がうかがえない。本人本位と思って努めている	入居時に本人や家族から希望や思い、生活歴、身体状況等を聞きシートに記録しています。入居後は日々の記録に利用者の言葉や様子から汲み取った希望や思いを記録し、申し送りノートにも記入して職員間で共有しています。困難な場合も職員間で話し合い、家族や看護師にも聞き本人本位に検討し思いや希望の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様から情報提供をしていただいている。又事業所からも情報提供は頂いている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり把握できている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングやや家族様からの要望、看護師の意見などで情報を共有しケアプランを作成している	利用者や家族から聞いた思いを基に作成した介護計画は、日々の介護記録や職員の意見を基に3か月1度モニタリングを行い実施状況を確認し、利用者の状態が安定していれば6か月毎に再アセスメントをして見直しています。見直し前にはサービス担当者会議を開催し、事前に聞いた利用者や家族、看護師、医師の意見も反映して見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、ミーティングから状態の変化などの情報を共有しケアプランに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の急用などで病院受診などが出来ない場合など対応させていただいたりして取り組んでいる		

グループホームいきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践は少ない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時には受診票を作成し医療機関との関係を支援している	入居時にかかりつけ医を継続できることを伝え、現在は全員が協力医を選択しています。協力医への受診は利用者の状態に応じて家族や職員が対応し、結果等の情報もその都度共有しています。専門医を家族対応で受診する際には利用者の様子を文書にして渡し、受診結果の報告も受けています。法人の担当看護師の健康チェックを受け、緊急時は協力医と24時間連絡が可能で連携を取っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、病室へ訪問し経過をみたり、退院時には情報提供をいただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる	これまでに意向に沿った看取りを実施しており、利用者の状態が進んだ際に事業所として対応可能な事を家族に説明して話し合い意向を再確認しています。支援に当たっては管理者から医師に意見を聞き対応が可能であれば看取りの体制を整え支援しています。今後看取りについての研修を実施する予定としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っているが、実践経験は薄い		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム独自での訓練はない。同敷地内の施設の応援で避難訓練は行っている	訓練は年2回それぞれ昼夜を想定しいずれも消防署立会いの下、利用者と共に通報や避難誘導、初期消火等の訓練を実施し全員が避難できたか各居室の確認もしています。法人全体として災害発生時の地域との協力体制を構築しており、運営推進会議で事業所としても地域へ災害発生時の協力の依頼を予定しています。また食料や水を数日分備蓄し災害に備えています。	

グループホームいきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全てに対応できているとはいえないが、努めている	法人のサービス向上研修会に出来るだけ職員全員で参加し接遇やマナーについて学んでいます。職員は丁寧な言葉遣いを心掛け、職員同士の情報の伝え方や言葉遣いにも気を付けるように伝えています。苗字での呼び方を基本とし、排泄や入浴介助時は利用者の自尊心や羞恥心に配慮し、希望に応じて同性介助をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	寄り添い、問いかけながら自己決定していただくよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、気分に合わせて意思の確認は行っているが、行事などで事業所優先になることもある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装など配慮し、その人らしい身だしなみができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ディールーム横に台所があり、手伝っていたり、調理の音・匂いなど楽しみもっていただいている	栄養士が作った献立をベースに利用者の希望や好み、季節に合わせた食事を作っています。食材は業者から届き、利用者は包丁を使って材料を切ったり、盛り付け等に携わり職員も共に談笑しながら食事をとっています。たこ焼きやホットケーキを作ったり、回転寿司やラーメン等の外食や弁当を作ってドライブへ行く等食事を楽しめるように工夫しながら支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者にあつた食事形態で食事量、水分量の確保に努めている。体重の変化にも気をつけている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている		

グループホームいきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的の声掛け行いトイレ誘導している。 自立に向けた支援を行っている	排泄記録を基に個々のリズムや排泄のサイン、時間を見ながら声かけや誘導を行い排泄の失敗が減らせるように支援しています。夜間にポータブルトイレを使用する人も日中はトイレで排泄できるよう支援し、利用者に応じて排泄用品の種類や大きさ、使用量等を職員間で検討して決めています。病院から退院後におむつを使用している利用者も早期に元の状態に戻るよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し便秘薬の服用や水分摂取、体操など個々に応じた予防に取り組んでいる。排便チェック表もあり状態把握に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を基本に体調など伺いながら、ゆっくり入っていただいている	入浴は利用者の体調や負担を考慮して週3回を目安に日中の時間帯に支援しています。風呂は毎日準備し、マンツーマンでゆっくり入浴してもらっています。浴室と脱衣場の温度差にも留意し、ゆず湯や菖蒲湯を実施したり、利用者の状態に応じて機械浴も使用し無理なく入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数でもドライブなどに出かけている	気候の良い時期は日々散歩や広い庭に出て外気浴を実施したり、ドライブに出掛けています。桜や紅葉、ひまわり、海を見に出掛けたり、近隣の道に買い物やおやつを食べに出掛けています。職員や利用者の思い付いた時に出かけることもあり、重度の利用者も外出できる機会を作り、外出を楽しめるよう支援しています。	

グループホームいきがい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。必要があれば立て替えて買い物などしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただくよう、装飾、花など飾っている。ひな祭り、五月人形、手作りの物なども飾り工夫している	共用空間は利用者の手作りの大きなカレンダーや貼り絵等を掲示して温かい雰囲気を作り、花やクリスマスツリー等を配置して季節を感じてもらっています。テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮して配置し、畳を敷いてこたつを置き寛げる場所を作っています。清掃は利用者も参加して毎朝晩行い、ドアノブや手すり、床等の除菌も行い清潔保持に努め過ごしやすいように配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子に座りながら日向ぼっこしたりして過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真など身近に置いたり、馴染みの家具など持参されて過ごされている	入居時に使い慣れた物を持って来てもらうよう伝え机や座椅子、筆筒、ぬいぐるみ、本、テレビ、家族の写真等を持ち込み家族や職員が考え配置しています。利用者の希望や状態に応じて布団敷きで休むことも可能です。随時清掃を行い清潔な環境の保持に努め、読書や絵を描くことを楽しむ方もおり、過ごしやすく快適な居室になるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置、台所など見渡せ、手摺りの設置にて自立した生活を送っていただくよう工夫している		